

# 曾根遺跡の謎にロマン

## 大昔調査会が 連続セミナー「石器作りも見学」

諏訪地域に根差した歴史文化を研究する一般社団法人・大昔調査会は14日、連続セミナー「諏訪湖底・曾根遺跡と旧石器の狩人たち」を開講した。初回は諏訪市博物館を会場とし、小学生親子から考古学ファンまで市内外の25人が参加。解説付きで展示室を巡り、湖底に眠る水中遺跡「曾根遺跡」の謎に迫った。名人による石器作りも見学し、旧石器時代の人々の暮らしに思いをはせた。

(鮎沢健吾)



諏訪地域の遺跡を広く知ってもらい、保護の機運を高めたいと県の地域発元気づくり支援金を受けて取り組む。初回は同会の高見俊樹さんと三上徹也さんが講師を務め、曾根遺跡と旧石器時代の諏訪湖東岸遺跡群の出土品がある館内展示室を案内した。

曾根遺跡は諏訪湖間欠泉センター（諏訪市）の沖合数百メートルにあり、1908年に発見された。研究者でもある三上さんは「なぜ湖底にあるか」というのが謎の一つとし、湖底に杭を立てて生活した「水上住居説」や、陸地だった部分が地滑りを起こして湖底に沈んだ「断層地変説」などを

諏訪市博物館で曾根遺跡について学んだ後、田中洋二

紹介した。

いわゆる「曾根論争」が起きている中、諏訪湖は増水と減水

古学者藤森栄一が提唱したと解説。「ここでは採れない石も出た。いろんな所から人々が曾根に来て、矢じりの作り方を教わったり教えたりしたかもしれない。曾根はロマンある遺跡」と語った。

石器作りは田中洋二郎さん、茅野市が担当し、鹿の角などで黒曜石を加工して尖頭器に。諏訪市小洲小4年の今井奏太さん(9)は「ナイフの

き3年以上)。問い合わせは大昔調査会(電話090・2204・2818)へ。

